

「ゴールド 金賞!」を

－ 9年生としての役割と責任を果たし集団の向上を－

- 1 学年 第9学年〔後期〕
- 2 主題名 よりよい部活動を〔4－(4)〕 関連項目〔2－(3)〕
- 3 ねらい
悩みながらも金賞を目指し取り組んでいく「恵子」達の姿を通して、互いの人間関係を大切に励まし合う協力関係の重要性に気付かせるとともに、個々が役割と責任を果たし集団生活を向上させようとする態度を育てる。
- 4 資料名 「『ゴールド 金賞!』を」
- 5 展開

	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 自分が所属する集団を出し合う。 ○ あなたは今どんな集団の一員として生活していますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年1組 ・ 生徒会 ・ 野球部 ・ ○○中学校 	○ 自由に発表させ、一人一人が、様々な集団に属していることを意識させる。
展 開	2 資料「『ゴールド 金賞!』を」を読んで話し合う。 ○ 「恵子」は部員一人一人にどんな声をかけたのでしょうか。 ○ 思わず涙ぐんでしまった「恵子」はどんな気持ちだったのでしょうか。 ◎ 「高橋君」の言葉にはっとし言葉を詰まらせた恵子は、どんなことを考えていたのでしょうか。 ○ これまでのことを思い出し胸が熱くなった恵子はどんな思いだったのでしょうか。 3 自分たちの生活を振り返り話し合う。 ○ みんなといっしょにやってきましたよよかったと思う体験やこれからやりたいことを出し合いました。	<ul style="list-style-type: none"> ・ だんだんといい音になっているよ。 ・ 音程が合うように練習しよう。 ・ 金賞を目指してみんなで頑張ろう。 ・ 1, 2年生の指導をお願いね。 ・ このまま「高橋君」がやめてしまったらどうしよう。 ・ 好きで遅れたわけじゃない。 ・ 部長をやめたい。誰か代わって。 ・ 二年前の私も同じだった。それなのにこんな思いにさせていたなんて。 ・ 1年生の気持ちを考えていたのか。 ・ 金賞をとるより大切なことがある。 ・ みんなで呉中学校吹奏楽部の音楽を創り上げたい。 ・ 「高橋君」やみんなが頑張ってくれた。 ・ 部長としての役割を果たした。 ・ 31人全員ですばらしい曲を演奏できる吹奏楽部を創ることができた。 ・ 合唱コンクールで金賞はとれなかったけど、いいクラスになった。 ・ 生徒会役員として朝のあいさつ運動をがんばってきた。 ・ 練習中、しっかりと声を出して後輩を引っ張っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 声をかけているときや目標に向かい部長としてがんばろうとしている「恵子」の姿から心情を考えさせる。 ○ 思い通りにならない現実を前に苦悩する「恵子」の心情をおさえる。 ○ グループで話し合った後、全体で交流する。 ○ 恵子の心情の変化をつかませる。 ○ ねらいにせまれるよう、切り返しや揺さぶり発問を行う。 ○ 前段とつなげ、クラブ、生徒会等で活動している写真を提示し振り返りをさせる。
終末	4 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後輩をよく引っ張って、部活動ががんばっているんだなあ。 ・ 自分も集団を向上させていくためにできることをやっていた。 	○ 学級及び部活動での生徒の様子や日記等から紹介し、今後への意欲をもたせる。

6 授業の概要

(1) 主題について

わたしたちは、様々な集団や社会の一員として生活している。その中でよりよく生きていくためには、自分の属する集団の目標や意義を十分に理解するとともに、各人がその成員としての役割と責任を果たしていくことが大切である。

この資料を通して、話し合いにより、それぞれの役割と責任を果たし目標を達成する中で集団生活の向上が図られ自己の実現もなされることに気付かせたい。また、集団生活を向上させるために、人間関係を大切に励まし合う協力関係をつくり上げていこうとする態度も育てたい。

(2) 自作資料活用のポイント

ア 活用の時期

9年生になった生徒は、生徒会活動や部活動等、最高学年として学校生活の様々な面で重要な役割を担っている。特に、クラブ活動では9年生として、また部長や副部長として、それぞれの部活動を向上させようと日々取り組んでいる。引退の時期を考えると、9年生の1学期あるいは長期休業後に扱うとよい。

イ ねらいにせまるために

練習に遅れ、思わず涙ぐんだ「恵子」とコンクール前日みんなの練習を見ながら胸が熱くなる恵子の心情は全く異なる。まず、「高橋君」の言葉にはっとし自分を振り返る恵子の心情をつかませる必要がある。この変容が、部長として何を大切に、後輩に何をどのように伝えていくかをつかませるきっかけとなる。展開の中で発問毎に話し合いを深めることで、初めて価値の自覚を促すことができる。

それには、揺さぶりや切り返しが重要になる。例えば、「金賞をとるよりもっと大切なことがある。」に対しては、大切なものとは何なのか、そのことを伝えるために部長としてどんな責任を果たしているか、あるいは「『高橋君』やみんなががんばった。」に対しては「高橋君」が変わることができたのはどうしてなのか理由を具体的に考えさせることにより、主題にせまらせたい。

ウ 学校の実態に合わせ吹奏楽部との連携を

資料文の内容が学校の実態に合っていれば、様々な配慮が必要な場合も考えられる。吹奏楽部との連携を図り、部活動の内容や実態をつかんだ上で実施することが望ましい。その際、実態に合わせ、資料中の吹奏楽部の人数や曲名、楽器を変える等の工夫も考えられる。

(3) 指導過程の工夫

ア 資料提示の工夫

毎年、広島県吹奏楽コンクール出場校の写真、CD、DVDが販売されているので、中学校区または近隣の吹奏学部と連携し、映像や写真、演奏を得ることも可能となる。さらに、4月、夏休み、コンクールの際の写真や演奏等もあると、資料提示だけでなく、場合によっては、これらの資料を導入で用いることもできる。最後の場面では、実際のコンクール当日の演奏を流すと、より心に響く資料提示となる。また、終末で活用し感動的に終わるような展開も考えられる。

イ 生活とつなげるために

様々な集団で活動している生徒の写真を用意しておき、集団の中で果たしている役割や集団生活を向上するために自分ができることを考えさせる手立てとしたい。

(4) 参考資料

「朝日新聞 別刷り特集」(2011年 平成23年 8月2日号)の記事

執筆者より

吹奏楽コンクールで中学生の演奏を聴き、演奏のすばらしさに感動しただけでなくそれまでの厳しい練習の道りに思いをはせた。生徒たちが共通の目標を目指し、心身共に成長できる部活動を創り上げてもらいたい。

(白岳小学校 上口 さゆみ)